

軍機

1

15

昭和十四年三月十二日

軍令部第一課 主務課 員

關係 部 員 殿

對露支同時作或戰時編制案ノ件照會

首照ノ件別表第一、第二、第三ノ通立案於候ニ付御意見三月十八日

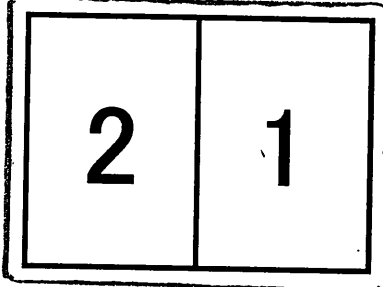
迄ニ御回示相成度

(別紙 第一、第二、第三表添)

(終)

1156

## 分割撮影ターゲット

分割した部分の撮影順序	
分割撮影した理由	A 3版以上のため
文書等名	対露支同時作戦戦時 編制案
上記のとおり分割撮影したことを証明する。	

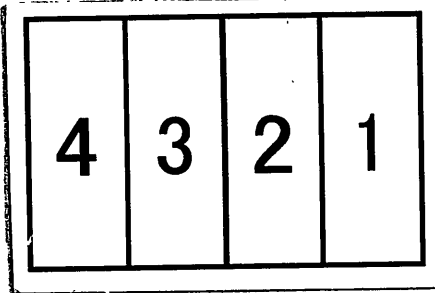


支那方面艦隊											合																	
附屬		第五艦隊					第三艦隊				第四艦隊																	
第一聯合航空隊		附屬	第四根拠地隊	第三根拠地隊	第二根拠地隊	第五水雷戰隊	第九戰隊	附屬	第二聯合航空隊	第一根拠地隊	第十二戰隊	第十一戰隊	附屬	第四聯合航空隊	第二聯合航空隊	第一聯合航空隊	第四水雷戰隊	第三水雷戰隊	第十三戰隊	第十二戰隊	第二航空戰隊	第二水雷戰隊	第二水雷戰隊					
膠州	fC×38 fb×18 fO×27	第十六航空隊(神川丸)	寫雁	嵯峨	長良、第三十驅(睡月、如月、彌生、卯月)	妙高(六月迄)、名取、千歲(六月ヨリ)	第一聯合特別陸戰隊	出雲	上海海軍特別陸戰隊	朝日	球磨、第二十二水雷隊、千鳥、真鶴、友鶴、初雁	安宅、伏見、栗、梅、堅田、(小鷹、熱海、一水、鴻、隼、鵠)	隱戸、徐、衰、石、郎	隱戸、徐、衰、石、郎	能登、千代田、神威	fd×12	fC×18 fb×18	fC×54 fO×36 fO×36	fO×36 fC×18	fO×54 中 fC×18	夕張 十六 十九	瑞穗 二十二 二十七	沖島、八重山、巖島、九潛(伊123、124)、十三潛(伊121、122)	愛宕、加古、古鷹	龍驤、蒼龍、十二驅(叢雲、東雲、薄雲、白雲)	別崎 二十一 二十一 八	那珂 二十七 十一	(曙、天霧、朝霧、夕霧、初霧、潮、津、濤、吹雪、白雲、伊七四、伊七五、伊七三)
牟婁丸病院(牟婁丸)	第十二航空隊 第十三航空隊	神川丸	第四特防 第六特防	吳三特、第一防	でり丸 第二防丸		第一、第二、港務部 第四特防 第一、第二、艇隊、首里丸 第五特防、橫一特、佐五特	第一、第二、港務部 第三、第四、五砲艦隊 日本海丸(第十三砲艦隊附屬)	第十二航空隊 第十三航空隊	第十七航空隊(濱空)	第八航空隊(敷香)	第六航空隊 第七航空隊	第五航空隊(高空)	第四航空隊(十四空)	第三航空隊(鹿空)	第一航空隊(木空)	第一航空隊(木空)	第一航空隊(木空)	第一航空隊(木空)	第一航空隊(木空)	第一航空隊(木空)	第一航空隊(木空)	第一航空隊(木空)	第一航空隊(木空)	第一航空隊(木空)			

第一表

隊 地 據 根 二 第		隊 地 據 根 一 第		區 分
屬 附 隊 備 防 二 第		屬 附 隊 備 防 一 第		
隊 部 上 陸	隊 部 上 海	隊 部 上 陸	隊 部 上 海	備 註
	夏 勝 島 力 第十一掃海隊 (十三、十四、十五、十六、十七、十八)		六二聯 (架、竹、樵) (急設網袋備) 第一掃海隊 (二、三、四、五、六) 第二十一掃海隊 (七、八、九、十、十一、十二) 白鷹 (初鷹) 第三艦潛隊 (第七、八、九艇潛)	
特 運 第二通信隊 一 (水偵三座) 八 第三通信隊 乙、丙 一 特設望 乙、丙 一	砲 臺 二 cm 12HAx8 90探x2 防空砲臺 (八種高砲 一四) (七五種高探 一四) 防備衛所 (乙) 二	砲 臺 三 cmA 127x8 8CHAx8 75探x3 8Cx4 cm 90探x4 防備衛所 (乙) 機雷四二〇個 (艦船搭載トハ別)	第一防備隊 特 砲 兼 母 一 特 砲 兼 數 四 特 砲 (大型兼碎水) 三 第十一驅潛隊 (特驅潛四、特捕網二) 第十二驅潛隊 (特驅潛四、特捕網二) 第二掃海隊 (特捕六)	特設艦船部隊 (兵器)
	特 砲 兼 數 四 特 砲 (大型兼碎水) 四 第三掃海隊 (特捕六) 第四掃海隊 (特捕六) 第十三驅潛隊 (特驅潛四、特捕網二) 第十四驅潛隊 (特驅潛四、特捕網二)	第一海軍通信隊 (甲、乙、丙) 一 特設望 望 二	第二防備隊 特 設 工 一 特 運 四	

## 分割撮影ターゲット

分割した部分の撮影順序	
分割撮影した理由	A 3 版以上のため
文書等名	対露支同時作戦戦時 編制表
上記のとおり分割撮影したことを証明する。	



備防保世佐		隊部府守領保世佐		隊部部港要鶴舞		隊戰備防吳		隊部府守領吳		隊部部		
常 佐世保防備隊	大村海軍航空隊 f <sup>c</sup> X12 f <sup>b</sup> X12 f <sup>o</sup> X18	佐世保海軍航空隊 f <sup>sr</sup> <sub>2</sub> X4 f <sup>d</sup> X4	佐世保海軍航空隊 f <sup>sr</sup> <sub>2</sub> X4 f <sup>d</sup> X4	佐世保海軍航空隊 f <sup>sr</sup> <sub>2</sub> X4 f <sup>d</sup> X4	舞鶴要港部 f <sup>sr</sup> <sub>2</sub> X8 f <sup>sr</sup> <sub>2</sub> X8 f <sup>c</sup> X12	舞鶴要港部 f <sup>sr</sup> <sub>2</sub> X8 f <sup>sr</sup> <sub>2</sub> X8 f <sup>c</sup> X12	吳防備隊 白鷹(初鷹) (第十五驅) 早潮、夏潮、夏潮	佐伯海軍航空隊 f <sup>b</sup> X6 f <sup>o</sup> X12	吳海軍航空隊 f <sup>c</sup> X12 f <sup>sr</sup> <sub>2</sub> X8	吳海軍航空隊 f <sup>c</sup> X12 f <sup>sr</sup> <sub>2</sub> X8	大湊防備隊 白神、葦崎、巖崎 防備所(甲)一 (乙)三	四驅(羽風、夕風) 一四驅(菊、葵、萩) 二掃(七、八、九、十) 一掃(十一、十二)
特砲(小型) 特掃海六		佐世保海軍航空隊 特設望樓五	佐世保海軍航空隊 特設望樓五	佐世保海軍航空隊 特設望樓五	舞鶴海軍通信隊 特設望樓五	舞鶴海軍通信隊 特設望樓五	特巡乘 特砲捕(小艇) 第三十驅 特防衛(甲)六 (乙)四	吳海軍航空隊 特設望樓二	吳海軍航空隊 特設望樓二	特設望樓二	特防衛(乙)一 特監視(乙)一 特敬(乙)一 第二十二驅 特掃海四	特砲(乘敷) 特巡乘 特砲捕(小艇) 第二十二驅 特掃海四
常 佐世保防備隊	大村海軍航空隊 f <sup>c</sup> X12 f <sup>b</sup> X12 f <sup>o</sup> X18	佐世保海軍航空隊 f <sup>sr</sup> <sub>2</sub> X4 f <sup>d</sup> X4	佐世保海軍航空隊 f <sup>sr</sup> <sub>2</sub> X4 f <sup>d</sup> X4	佐世保海軍航空隊 f <sup>sr</sup> <sub>2</sub> X4 f <sup>d</sup> X4	舞鶴要港部 f <sup>sr</sup> <sub>2</sub> X8 f <sup>sr</sup> <sub>3</sub> X8 f <sup>c</sup> X12	舞鶴要港部 f <sup>sr</sup> <sub>2</sub> X8 f <sup>sr</sup> <sub>3</sub> X8 f <sup>c</sup> X12	吳防備隊 (第十五驅) 早潮、夏潮、夏潮	佐伯海軍航空隊 f <sup>b</sup> X6 f <sup>o</sup> X12	吳海軍航空隊 f <sup>c</sup> X12 f <sup>sr</sup> <sub>2</sub> X8	吳海軍航空隊 f <sup>c</sup> X12 f <sup>sr</sup> <sub>2</sub> X8	大湊防備隊 白神、葦崎、巖崎 防備所(甲)一 (乙)三	四驅(羽風、夕風) 一四驅(菊、葵、萩) 一驅(神風、波風)
特砲(小型) 特掃海六		佐世保海軍航空隊 特設望樓五	佐世保海軍航空隊 特設望樓五	佐世保海軍航空隊 特設望樓五	舞鶴海軍通信隊 特設望樓五	舞鶴海軍通信隊 特設望樓五	特巡乘 特砲捕(小艇) 第三十驅 特防衛(甲)六 (乙)四	吳海軍航空隊 特設望樓二	吳海軍航空隊 特設望樓二	特設望樓二	特防衛(乙)一 特監視(乙)一 特敬(乙)一 第二十二驅 特掃海四	特砲(乘敷) 特巡乘 特砲捕(小艇) 第二十二驅 特掃海四









供覧

軍機

三六

(I)

力

鷗

四二二番

(印)

月二十七日 昭和十四年交作戦計畫案修正ニ関スル  
而總長 奏大上ノ條

暹羅國ニ對スル工作ニ関スル政府ニ強要スルヤ  
トノ申下向アリ

右ニ對シ

此ノ工作ニ決シテ之ヲ政府ニ強要スル考ニハアラス

外務大臣ニ於テ極力限リ努力力シテ貫ヒテ  
此ノ旨ヲ奏奉 答セラレタリ

(終)

海軍

昭和十四年十一月二十七日

軍  
秘

(一) 海軍方面

昭和十四年十二月ニ於ケル蘇聯邦豫想兵力

(1) 沿海州方面

艦種	潜水艦			要項
	輕巡	小	中	
輕巡	二	二九	四、一	二、二
排水量	二、九〇〇	一、一五〇	六〇〇	一、〇〇〇噸
速度	40	13-16	15-16	15-18
砲裝	13×5 mm 45×6 mm 13.5×6 mm	3.7AA × 1	8~Mg × 1 (1~2) 3.7AA × 2	0.2×1 Mg×1
雷裝	53.3×6 M×70	45~53 ×(2~4)	53×6	53×6 M×36 (?)
記事	北海	波海	黑海	超天×2 大×20 大×15 中×13 中×40 中×15 小×20 小×10

海軍

小田納

敷設艦	假裝巡洋艦	警備艦		高速艇	水雷艇		驅逐艦	
		中	大		中	大		
六	一〇	一	二	八〇	六	二	三	
三、 一四、 五〇〇〇	七五〇 一三〇〇〇	二、 〇〇〇	八一〇	一〇一 二五	六〇〇	一、 三〇〇	一、 五〇〇	
14	8-10	18	20	45	29	30		
7.5~12.12~15 ×(3~4)×(1~2)		10×2 Mg×2	10.2×3 4A×4	Mg ×(0~1)	10×2 3.7AA ×1 Mg×2	10×4 7.5A×1 3.7×1		
M×500				45 ×(1~2)	5.3×3 M×40 DC×2	4.5×9 M×60		

海軍

1167

海軍

碎氷艦	潛母	掃海艇
七	一	七
一、 上 〇〇〇	四、 五〇〇	二〇〇 一〇〇〇
13~18	8-12	10-12
	15×4 Mg×4	
11,000 型 f×3		

1  
出  
時

1168

砲艇 特型	掃海兼敷設	砲艦			艦種	要項	(口) 黑龍江方面
		小	中	大			
四三	五	二	五	三	四	隻數	
五〇	二〇〇	二〇〇	四五〇	九六〇	九六〇	排水量	主
18	6	"	12	"	12	速度	要
8×(2~3) Mg×4	6×1	8×2	(8~10)×2 Mg×?	12×8 8HA×2 Mg×2 Mg×3	15×4 8HA×2 AMG×y	砲裝	目
						雷裝	
						記	
						事	

海軍

本國



海軍

水上機ライタ	特務艇	高速艇	警備艇	砲艇
一 一 二	二 〇	二 〇	一 〇 〇	一 〇
	二 〇 〇	一 〇 一 五	一 五 一 六 〇	三 〇 一 四 〇
	8	45	12~18	17~18
	Mg×3	Mg× (1~2)	Mg× (1~2)	Mg ×(4~6)
			短8×1	短6×1
		45 ×(1~2)		

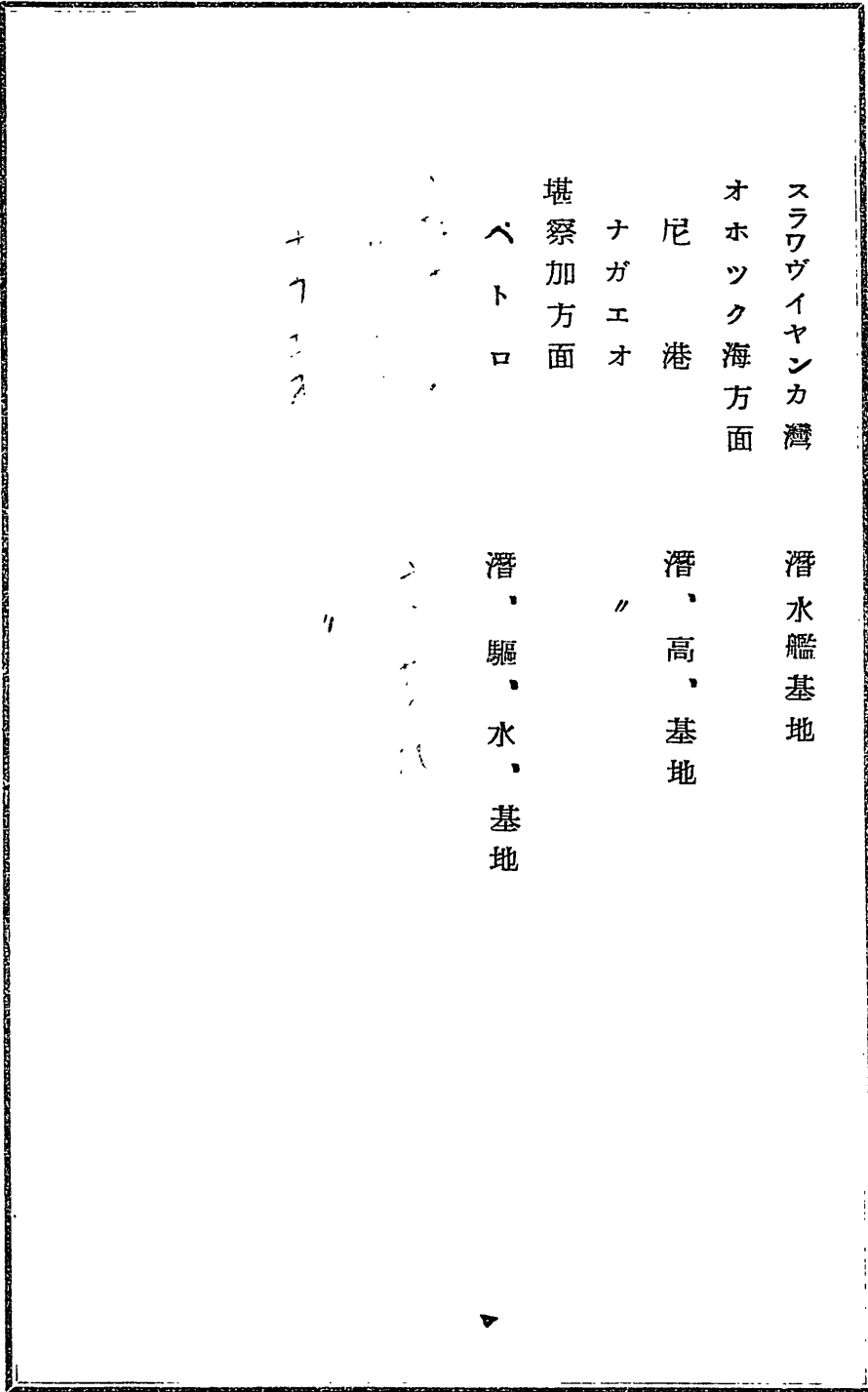
1170

(ハ) 海軍根據地

沿海州方面

金角灣	各種施設、各種艦艇基地
ウリス灣	修理工場、潛、高基地
デオミット灣	〃
ノウイク灣	潛、高、基地
亞米利加灣	潛、驅、水、基地
ワストク灣	潛、基地
シュトワ灣	〃
オリガ灣	〃
ソウイェト灣	各種施設、各種艦艇基地
デカストリ灣	潛水艦基地
ボセツト灣	〃

海軍



スラヴイヤンカ灣  
 潜水艦基地  
 オホツク海方面  
 尼 港  
 潜、高、基地  
 ナガエオ  
 堪察加方面  
 潜、驅、水、基地  
 ベ ト ロ  
 ナク  
 三  
 三

海軍

上出紙

(二) 在極東空軍兵力

機種	大隊數	第一軍	第二軍	ザバイカル	堪、北樺 オホツツク	計 (稱數)
重爆撃機	二三	一二(三)	五	四		二三〇
中爆撃機	一八	四(六)	四	四		三四二
輕襲撃機	一四	三(二)	三	六		三九二
偵察機	四	(二)	一	一		一一二
驅逐機	一九	六(六)	三	四		五三二
其ノ他	二八中	二	七	四	五	二五二
總計	二八中大					一、八六〇

備考

一 昭和十四年十二月豫想兵力約二、〇〇〇  
 二 十三年度初頭空軍總兵力約五、八〇〇、內在極東一、五〇〇

海軍





(四) ナガエオ

約 七〇〇名

内務省飛行大隊

北樺太方面

(一) 狙撃第N師團 (狙撃兵三聯隊ヲ主幹)  
一ヶ師團 (編成中)

〽旅團 一

(二) オハ

第五十二國境警備隊一部

(三) デルビンスコエ

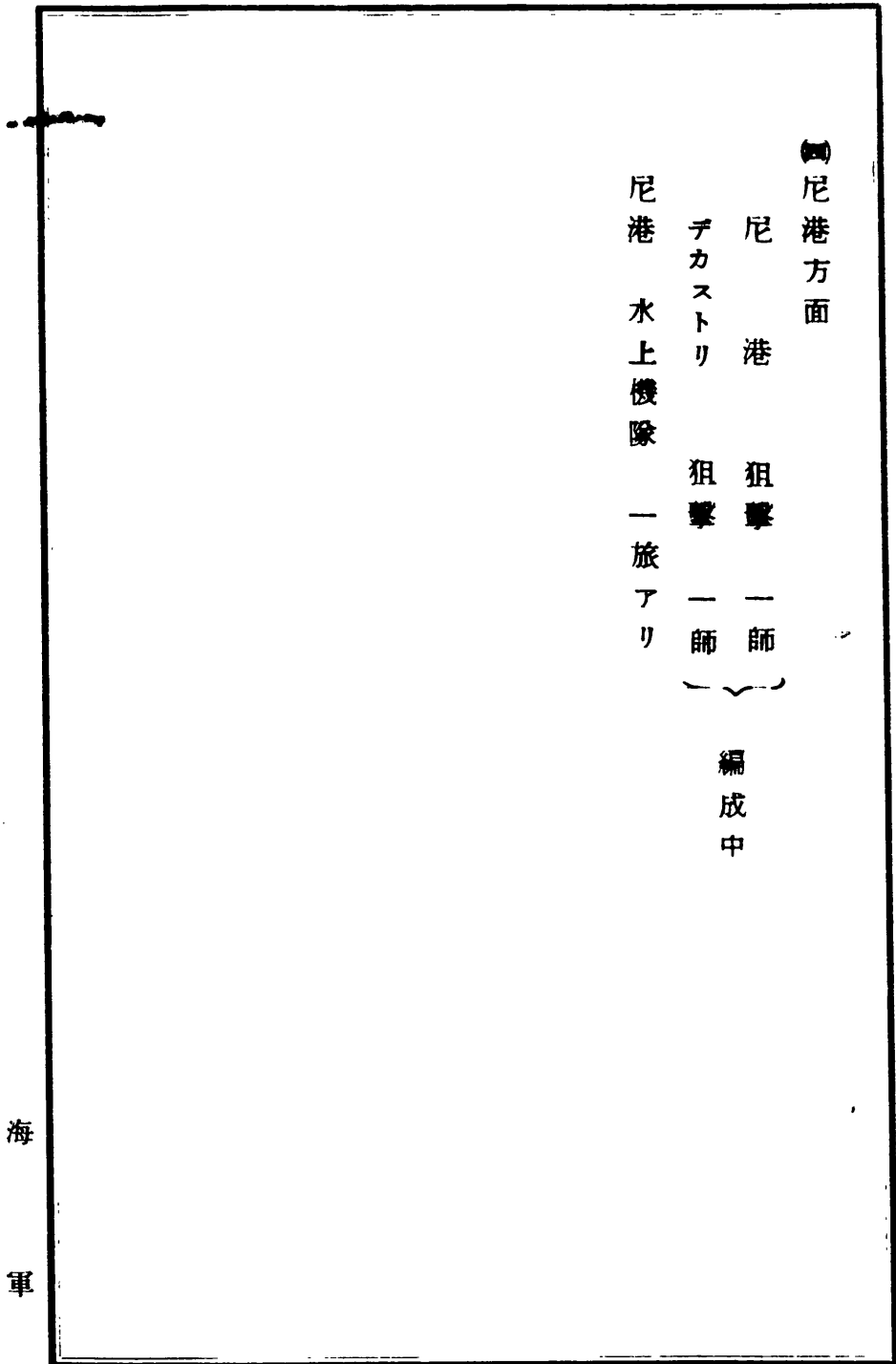
第五十二國境警備隊主力

國內警備第七十七大隊主力

〃 騎砲兵部隊

内務省飛行一中隊

海軍



④ 尼港方面

尼 港

狙撃一師

デカストリ

狙撃一師

尼港 水上機隊 一旅アリ

編成中

海軍

木田納

1177



## 分割撮影ターゲット

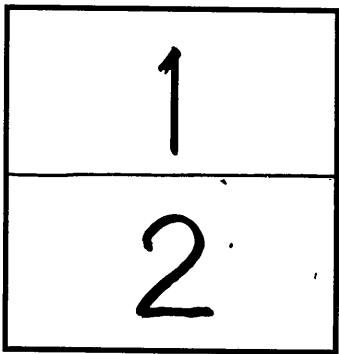
分割した部分の撮影順序	
分割撮影した理由	A3版以上のため
文書等名	米国陸軍機要月表
上記のとおり分割撮影したことを証明する。	

表 昭和14年1月調製 軍令部第五課

目		性能		兵装		購入機数 年度							
自重	搭載量	速度(節)	航続力(荷重)	上昇力	機銃								
	搭載量中 燃料油 兵器	最大高度 (巡航)	航続距離 (里)	上昇速度 (米/分)	機銃 (砲)								
922	255	145	1,171	200	302	3000/48	8,000	国2					
9586	5824		2,541	260.5	3048		1042	966	9048	国05x/10.3x1	85 1937		
				256			8684				230 1937~1938	内P-36A 210機=計37-6 月1機生産	
				278			540		10,000	国37x1 国77x2	13 1938	360里x61m=7飛行機	
				260以上			行動半径 520里		9,150以上	国37x2 国03x2 国05x2	18 1938	実機機: 比炸裂弾7発以上 5弾毎=曳痕弾7使用	
				313 ~347								実機機	
				"								"	
2,213			3,380	177 (147)				762.5	6314	国03x4 旋03x1	小型x20 大型x4	110	
				19						"	"	129 1937	A-17 改良型=計引込用2機
				2								13 1938	航続距離: 大ルト共=低高度 於700里 斗力大ナリ
				200以上						国x4 旋x2	600 lbs bomb	7 1938	
				190以上								169 1937	内地便察用機 37-6 第1機生産
												5 1937~1938	
												15 1934	性能 B-10-B = 若干劣ルモ大 差ナキモノト認ム
												33 1934	同上
4,412	1,420	1347		200 (139)			1,693		7,407	聯旋2	1400 kg	103 1935~1936	
5,620	2,790			8,410 (140)			2,600	305	7,410	"	1,000 kg x1	255 1937~1938	本台機 DC-27 改造 (90元) 計 33-6 78機 追加購入 (B-18A)
7,500				15,000	217	(大果)16 (大果)2,500 (中果)246 (中果)3,800			7,500	聯旋5		54 1937~1938	火暴弾 3,500 kg 搭載 航続距離 2,800里 38-6 13機 直注 (B-17A)
	2,500 ガロン		30,000	61 (111)			5,210				6	1937	實機機



米國陸軍機要目表

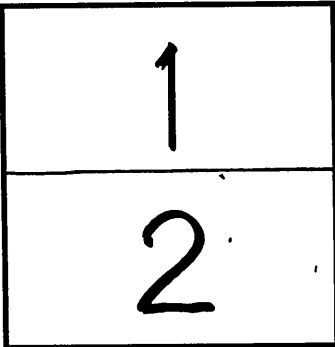
昭和14年

種別	機名 (製作會社名)	座式 型式	座席 名	發動機		寸法(米)			重量(磅)				速度(節)	
				基 數	馬力 高度(米)	全幅	全長	全高	自重	搭載量	搭載量中		最大 (巡航)	高度 (米)
											燃料	兵器		
馬 逐 機	P-26 Boeing	低翼單葉	1	P+W	1	550	8.23	7.18	2.95	922	255	145	1,177	200
	P-35 Sewerstep	"	1	Twin Wasp 2 Wright Cyclone	1	1,000	10.9	7.7	3	1958	5824		2,541	260.5 3048
	P-36 Curtiss	"	1	Twin Wasp R-1830-17	1	1,100								256
	P-37 Curtiss	"	1	V-1710	1	1,000								298
	YFM-1 Bell	低翼單葉	5	Allison V-1710	2	1,000								260 以上
	XP-40 Curtiss (?) XP-39	"		Allison V-1710										313 ~347
襲 擊 機	A-17 Northrop	低翼單葉	2	Twin Wasp, Jr.	1	750	14.54	9.67	4.34	2,213			3,380	179 (147)
	A-17-A Northrop	"	2	Twin Wasp, Jr.	1	750								192
	Y1A-18 Curtiss	中翼單葉	2	Wright Cyclone	2	930								200
	YA-19 Vultee	低翼單葉	3	Twin Wasp	1		15.24	11.25	3.05					200 以上
偵 察 機	O-46-A Douglas	高翼單葉	2	Twin Wasp, Jr.	1	725								170 以上
	O-47 North American	中翼單葉	3	Wright cyclone										
	O A-5 S-43	高翼單葉飛行艇 型兩用機	18	P+W Hornet	2	750								
爆 擊 機	YB-10 Martin	中翼單葉	4~5	Wright Cyclone	2									
	YB-12 Martin	"	"	Hornet	2	600								
	B-10-B Martin	"	"	Wright Cyclone SGR-1820 G3	2	740	21.6	13.63	3.48	7,412		1,420	1,347	200 (139)
	B-18 Douglas	中翼單葉	"	Wright Cyclone R-1820-53	2	760	25.9	18.9	4.95	5,620	2,790			8,410 (140)
	B-17 Boeing XB-15 Boeing	"	9	Wright cyclone R-1820-51	4	1,000	32	21.35	4.575	7,500				15,000 217
		"	"	Twin Wasp	4	1,000	45.75	27.45	5.49			2,500 加ワソ		30,000 (191)

1178  
1179

備考 新聞雜誌等ニ発表セラルル資料ヲ以テ製作セラルルモノヲ以テ正 確ヲ其ノ難ニ

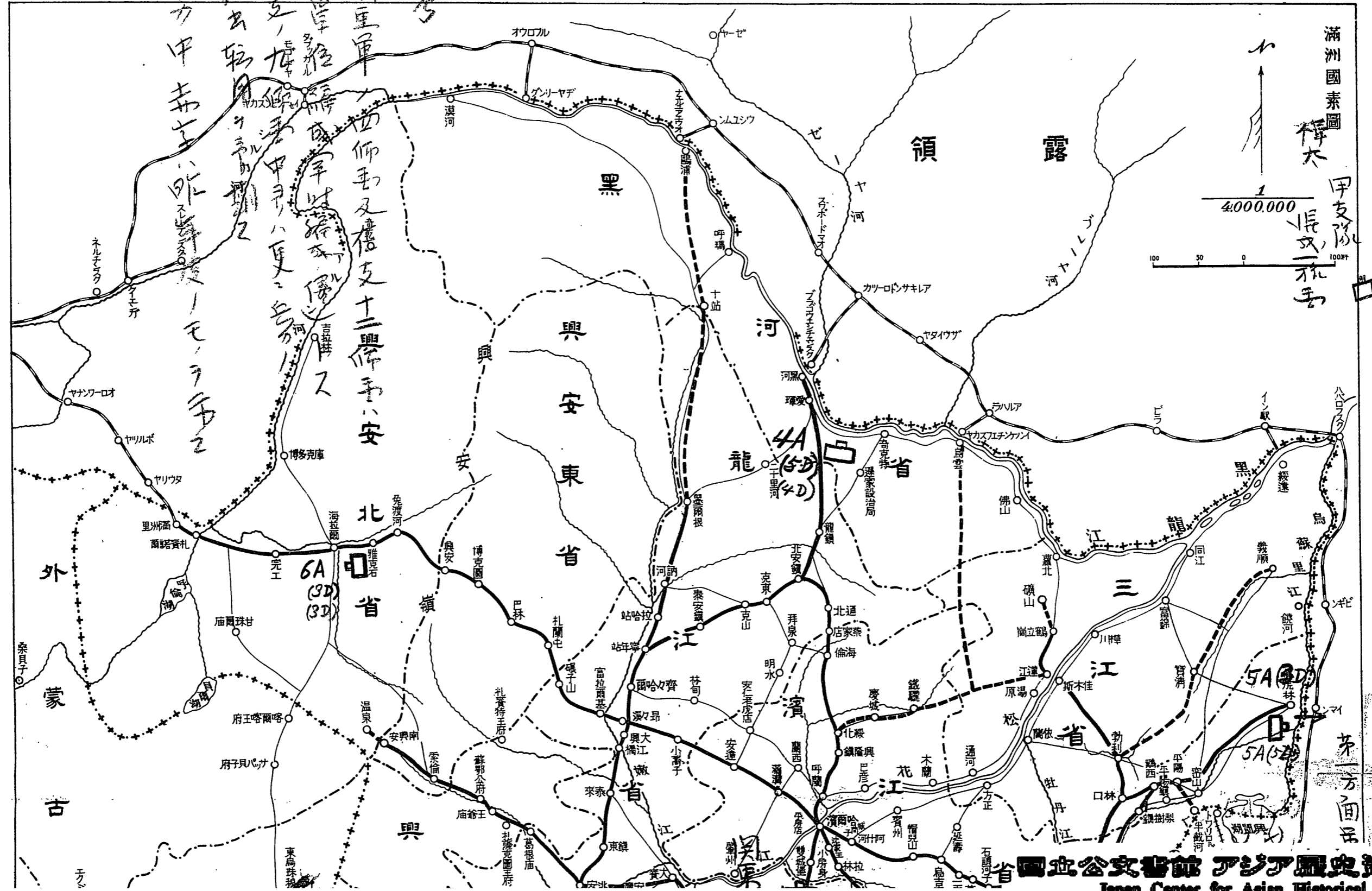
## 分割撮影ターゲット

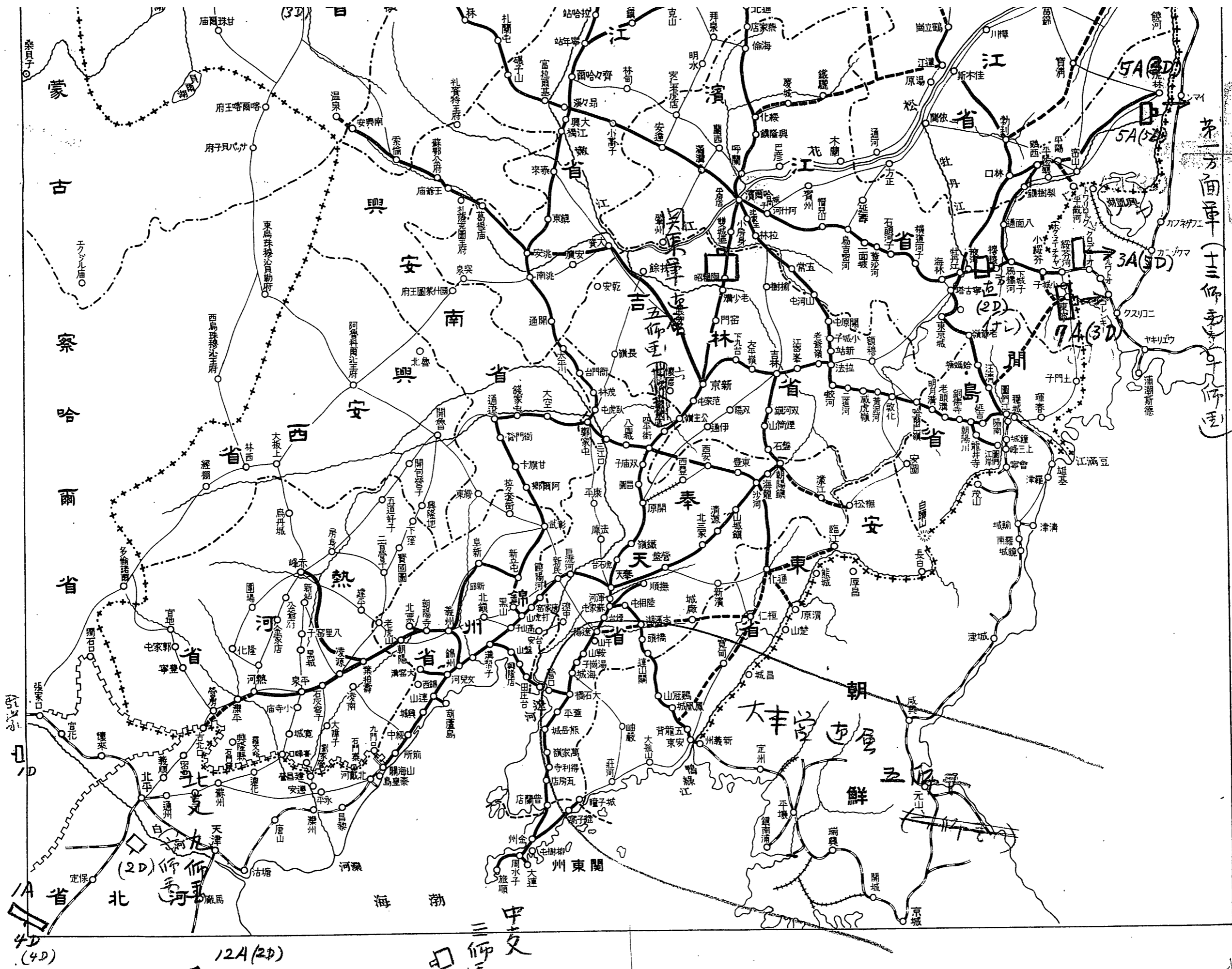
分割した部分の撮影順序	
分割撮影した理由	A 3 版以上のため
文書等名	対支露作戦兵カ区分 概見図
上記のとおり分割撮影したことを証明する。	

1180  
1181

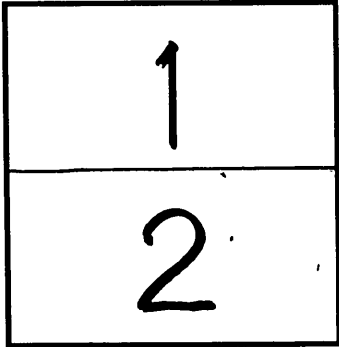
秘  
初  
支  
露  
作  
此  
力  
区  
台  
批  
見  
目

一、園軍軍  
二、兵方中  
三、軍軍  
四、師軍  
五、師軍  
六、師軍  
七、師軍  
八、師軍  
九、師軍  
十、師軍  
十一、師軍  
十二、師軍  
十三、師軍  
十四、師軍  
十五、師軍  
十六、師軍  
十七、師軍  
十八、師軍  
十九、師軍  
二十、師軍  
二十一、師軍  
二十二、師軍  
二十三、師軍  
二十四、師軍  
二十五、師軍  
二十六、師軍  
二十七、師軍  
二十八、師軍  
二十九、師軍  
三十、師軍  
三十一、師軍  
三十二、師軍  
三十三、師軍  
三十四、師軍  
三十五、師軍  
三十六、師軍  
三十七、師軍  
三十八、師軍  
三十九、師軍  
四十、師軍  
四十一、師軍  
四十二、師軍  
四十三、師軍  
四十四、師軍  
四十五、師軍  
四十六、師軍  
四十七、師軍  
四十八、師軍  
四十九、師軍  
五十、師軍  
五十一、師軍  
五十二、師軍  
五十三、師軍  
五十四、師軍  
五十五、師軍  
五十六、師軍  
五十七、師軍  
五十八、師軍  
五十九、師軍  
六十、師軍  
六十一、師軍  
六十二、師軍  
六十三、師軍  
六十四、師軍  
六十五、師軍  
六十六、師軍  
六十七、師軍  
六十八、師軍  
六十九、師軍  
七十、師軍  
七十一、師軍  
七十二、師軍  
七十三、師軍  
七十四、師軍  
七十五、師軍  
七十六、師軍  
七十七、師軍  
七十八、師軍  
七十九、師軍  
八十、師軍  
八十一、師軍  
八十二、師軍  
八十三、師軍  
八十四、師軍  
八十五、師軍  
八十六、師軍  
八十七、師軍  
八十八、師軍  
八十九、師軍  
九十、師軍  
九十一、師軍  
九十二、師軍  
九十三、師軍  
九十四、師軍  
九十五、師軍  
九十六、師軍  
九十七、師軍  
九十八、師軍  
九十九、師軍  
一百、師軍





## 分割撮影ターゲット

分割した部分の撮影順序	
分割撮影した理由	A 3版以上のため
文書等名	独立守備隊 国境守備隊 配備要図
上記のとおり分割撮影したことを証明する。	







軍

一、北島方面（艦隊編制表及国情概参照）

平時兵力（一九三八年現在十九、一九三九年未二十）略同様十九（）

甲巡

乙巡

駆（大戦型）

増（S型）

駆母

増母

掃

補給母

救

一三一三三〇

五九〇三

海軍省第十三号部紙（本田敏）

海軍

1184



又、戦時ニ対スル予想。

作戦方針ヲ左ノ如ク判断ス(経手有力ナル増勢力ハナカハズニト思ハル)

但、第三国トノ戦争等ノ為日本軍ガ牽制セラレアン場合

若クハ米ノ対日軍備完成シ彼ヨリ積極的ニ

同戦セル場合等ハ別問題ナリ

イ、比島方面ニ於テハ一般ニ無面目ノ戦闘ハ避クンナラン

ロ、米海軍ハ予想セラルル日本ノ攻撃ニ抵抗シタル

後戦略的ニ比島方面ヨリ退却シ時機ヲ見テ

出直スナラン

ハ、在北部隊ノ全滅ハ特向ノ問題ナハキヲ以テ斯ノ如ク

早晚全滅スル部隊ニ不徹底ナル増勢力ハ企図セザル

ナラン

海軍

機造中表十三行部式(本田海)

二、幹部ニ米人ヲ置キ主トシテ比島人ヲ以テ防衛軍ヲ  
(陸軍)ヲ編成シ敵ノ拂フ犠牲ヲ可及的大ナラシムル  
ニ努メソ、最後ニハ米人ハ引揚ケルナラン

註

1. 最近ニハ比島方面ニ陸海軍施設ノ増勢ヲ南カズ(除次項)  
口軍事最高顧問「コフクアーサー」ノ特ニ努力シアルハ  
比島聯邦国防軍ノ急速充實ニシテ特ニ比島人  
航空部隊ノ急速建設ニアリ

三、瓦敷方面(艦隊編制表及国情概概参照)

1. 平時兵力(一九三八年現在トシテ一九三九年末ニ至ル目標トシ)

給油艦

掃

海軍

海軍省資料(本田稿)

雑役船

一

海兵

約一五〇

民軍

約一七五〇

2. 戦時<sup>2</sup>対<sup>2</sup>予<sup>2</sup>相<sup>2</sup>心

比島<sup>2</sup>進<sup>2</sup>下<sup>2</sup>

但飛行機ハ一特同地ヲ基地トシテ活動スルナラズ

三. 真珠湾方面(艦隊編制表及国情概参照)

1. 平時兵力(一九三八年現在トモ一九三九年末ニ略同様トス)

第四潜水隊

一六

増

四

母

三

海軍

2. 戦時対空予想	陸軍兵力	飛行機	海軍	陸軍	飛行機	空船	救					
	約 一八、〇〇〇	司令部附屬 (三)	基地中隊 (三)	偵察機 (二)	爆撃機 (三)	襲撃機 (一)	駆逐機 (二)	輸送機 其他	飛行艇 (五) 中隊	常用 七二	八	二
		若干	若干	二六	三九	二五	五〇					
										計 約 一五〇	計 常用 八〇	

海軍

機造中隊十三行部隊 (本田機)

7

明治十三年(1880) 本田清

1. 国交緊張時若ハ、周戦直後 本国ヨリ 有力ナルセ行  
 機隊及 陸快部隊 根拠地部隊等ノ 増援アハシ  
 口米・若渡洋作戦ヲ行フトセハ 渡洋部隊ハ 布達  
 (真珠港)ヲ 前進根拠地トシ 一應此處ニ 集合スル  
 公算大ナリ

註

本行機ニ対シテハ 別ニ 送付ノ 表參ル

(終)

(禁)

海軍

1190



呈  
示

20

一九三二

海軍省第十三行部紙(本田納)

一三一—二—二九

米海軍出師準備所要期間、予想

一、改造等ノ工事ヲ終リ(又ハ之ヲナクモトナク)西岸根拠地ニ集合

シアル部隊(主トシテ在役艦隊)ガ急速準備ヲ整ヘテ

前進根拠地ニ向ケ出勤スル<sup>場合</sup>所要期間

約一ヶ月

判断根拠

一、一九三五年大演習ニ於テ第一期第二期ノ間隔(西岸基

地ニ於テ)艦隊ガ出港前ノ各種事項実施所要期間)

ヲ約三十日ト予定シアリ

又、米國海軍在役艦ノ定例入渠ハ主力艦一艇ニ日位ニテ

連續順次ニ実施スルヲ例トス(即入渠日数ヤ)

海軍

在後艦中ニハ出勤前入渠ヲ要セザルモノ相當アルベク  
約一ヶ月モアレハ必要ナシ入渠ハ出来ルニアラズヤト認ナラシ

(但右ハ取ルモノ取ラ致ヘズ先ヅ前道基地ニ進航スルカ或ハ  
事前ノ準備相當出来ル時ノ判断ナリ)

二. 渡洋作戦ニ対スル準備ヲ相當程度先取シテ西岸基地ヲ  
出港スル<sup>場合</sup>所<sup>期</sup>西岸<sup>期</sup>向

約四〜六ヶ月

判断根據

一. 改造建造若クハ今試中ノ艦船ヲ竣工セシメ、東岸ニア  
ルモノハ之ヲ西岸ニ回航シテ必要ナシ準備ヲ整フニ迄ニハ  
数ヶ月ヲ要スベシ

海軍

- 2. 米海軍に於てハ戦時特設空母二十隻ヲ要スト稱シアリ  
日下特設空母ニ改装ニ要スル適ニ高船約十隻アリ  
廣シク改装ニ要スル期間ノ予想別紙ノ如シ
- 3. 補助空母(舊艦ヲ改装ス)及輸送船ノ集合整備  
モ前記各項ト同時ニ施行セハ數ヶ月ヲ要スベシ
- 4. 飛行機ノ整備(別紙數量)ニハ六月モアレハ充  
分ナルベシ

(註)

- 1. 如何ナル程度ノ兵力ヲ整備セハ果シテ米國ノ対ハ渡洋  
作戰ヲ實施スルハ前記判断トハ別ノ問題ニシテ  
單ニ準備ニ要スル予想期間ヲ記ス
- 2. 出師準備所要期間ノ長短ハ外交緊張期間ノ

海軍

海  
軍

長短ニヨリ左右セラルコト大ナルベシ  
 3. 所要敷全部ヲ悉クセスト天準備整ヒタシモヨリ順次前進  
 基地ニ向ヒ出航スルコトアルベシ

(終)

原簿に在りし(行原紙)七田崎)

米國戰時徵用船舶改装所要期間  
ノ豫想

13-6-1

- 米國現有優秀船十隻ヲ特空母ニ改装スルモノトシテ所要期間豫想次ノ如シ
1. Manhattan, Washington, President Coolidge ノ三隻ハ格納庫二段昇降機前後二箇ノ航空母艦（超優秀船ト同等）ニ改造スルモノトシテ着手後四ヶ月ノ工事期間ヲ必要トスト豫想ス
  2. Lurline, Mariposa, Monterey ノ三隻ハ格納庫二段昇降機前後二箇ノ航空母艦（優秀船ト同等）ニ改造スルモノトシテ着手後四ヶ月、格納庫一段（秩父丸級）ニ改造スルモノトシテ着手後三ヶ月ヲ必要トスト豫想ス
  3. Virginia, Pennsylvania, California, Malolo ノ四隻ハ格納庫一段昇降機前後二箇（秩父丸級）ノ航空母艦ニ改造スルモノトシテ着手後三ヶ月ヲ必要ト豫想ス

1195

海 三

米國ノ造船所ノ能力ヲ以テセバ此等ノ船舶ヲ同時ニ改造着手シテ上記ノ  
 期間ニテ竣工セシムルコト不可能ナリトハ思考セサルモ實際問題トシテ  
 ハ此等ノ船舶ヲ一時ニ繋船スルコトハ考ヘラレザルヲ以テ三隻宛着手シ  
 テ上記期間ニ竣工スト豫想スルヲ適當トスベシ

1196

海軍

二

米海軍、対日作戦計画予想

米海軍兵術研究資料科(共四) 一通

日下波洋作戦調鎖 (The conduct of an overseas naval campaign) 1920

謄写中、付出来次第配布ス 参考トセヨシ

海軍省第十三号(本田班)

海軍

1197



米海軍戰時豫想航空兵力 (昭和14年末)

戰艦	15隻	VO	3×15=45
甲巡	18隻	VS	4×18=72
乙巡 (Brooklyn 級)	9隻	VS	4×9=36
乙巡 (Owaha 級)	10隻	VS	2×10=20
空母 (Sara-Lex-York-Enter)	4隻 (各艦VF, VSB, VB, VT各1中隊)		
		VF	18×4=72
		VSB	18×4=72
		VB	18×4=72
		VT	18×4=72
空母 (Ran-Wasp)	2隻 (各艦VF, VB各1箇中隊 VSB各2箇中隊)		
		VF	18×2=36
		VSB	18×4=72
		VB	18×2=36
特空母	10隻 (各艦VSB 18機 VF 12機)		
	(完成迄ニハ相當期日ヲ俟ス)		
		VSB	18×10=180
		VF	12×10=120
哨戒機	30箇中隊		
		VPB	12×30=360

海軍

本出納



合計	VO	45
	VS	128
	VF	228
	VSB	324
	VB	108
	V. T.	72
	VPB	360
	<hr/>	
	計	1,265

註 1. 戦闘用常用機ノミトス (哨戒機ハ $\frac{1}{4}$ 其ノ他 $\frac{1}{2}$ ノ補用機ヲ有ス)  
 2. 海兵隊機ハ特空母ニ搭載スルモノトス (海兵隊ニハ VB 及 VS アルモ一括シテ VSB トセリ)

(終)

海  
軍

小  
田  
納